



Ferment Glass

生物は死後、微生物によって分解される事で豊かな土壌を形成し環境へ還元してきた。

それは動物の糞も同様に、やがて朽ち果て循環に属する「合理的な」建築といえる。

人間の家を循環から捉えた時、近代以降の住人は朽木の素材から構成され、

ガラスは永遠の純化された存在であることを強いてきた。

発酵/腐敗していくガラスを考える。

発酵と腐敗は同義でありその言葉は観察者(人間)本位で区別される。

時間と環境と人間という不純物を受け入れたガラスは徐々に朽ちていく。

人はそれまで腐敗と捉えていたものと対照し、その価値観は揺れ動く。

透明だった光は淀み変色する / ブリズムが世界を虹色に彩る。

実像と思えた景色は歪みだす / 視覚を超えた本能を呼び覚ます。

水平垂直の計画性は統び始める / 不確定性の中に居場所を見出す。

自然の輪廻を受け入れたとき、人はその一部であったことを思い出す。

21世紀の家は、地球本位の循環に生存と豊かさを見出す行為によって切り開かれる。

発酵ガラス
環境と動物(人)の活動により分解され有機物を生み出すガラスとする。

型枠：岩・再生コンクリート等、樹脂ブロック(旧：廃生ごみ)等



大地の素材 or 人の素材 を型枠とする。
細胞分解される「機能的な平面を持つ」ブロックを振える。



ガラスを埋め込む。ブロックは数か月で分解される。
形態は重力で図る。



ガラスは太陽・雨などの自然環境によって長期的に有機物へ分解される。
内部は機能的でない。



人の活動によって分解が進む。腐敗/発酵の中では豊かさを見る。
形態は環境と人の活動の結果として生成される。



今がて人は住めなくなる。豊かな土壌を残し人の歴史が大地に残る。
形態は失われる。